

調布市緑の基本計画（素案） 概要



第1章 計画の位置付け

○計画策定の趣旨

都市における緑地の適正な保全及び緑化の推進を総合的かつ計画的に実施するための計画

○計画期間

令和3（2021）年度から
令和22（2040）年度までの20年間

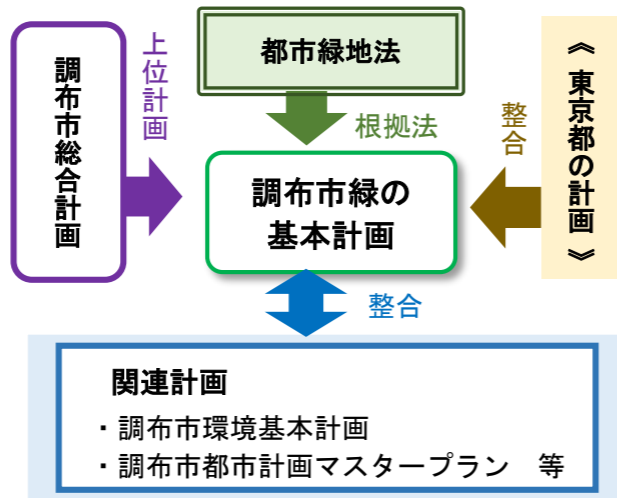
○計画の役割

緑全般に関する幅広い総合的な計画であり、緑施策の指針となるもの

※市民・事業者・行政の協働により実現を図る

○上位・関連計画との関係

市の「総合計画」を構成する個別計画



第4章 調布市の緑の現状と課題

○対象とする緑

施設緑地…都市公園や公共施設・民間施設緑地等の緑の施設に該当するもの
地域緑地…緑の保全や緑化に関する法律・条例等の制度を適用している地域の緑

○現状と課題

現状

- ・都心に近い緑豊かな住宅街
- ・人口増加と活発な市民活動
- ・公園・遊び場に対する不満
- ・市民の高齢化・緑の未来の担い手不足
- ・多様な自然環境
- ・緑の減少

課題

- ・緑の質の向上
- ・崖線樹林地や都市農地などの緑の保全
- ・民有地における緑化の推進
- ・参加と協働による緑のまちづくり

第5章 緑の将来像

緑の将来像

ひと・みず・みどりが調和するまち調布

市民が安心感を得られるような緑や水の質の維持

市民ニーズの充足や地域課題等の解決

持続的な緑のまちづくりの推進

基本目標1：
調布らしいぬくもりのある緑や水の保全と活用

基本目標2：
みんなの笑顔につながる質の高い緑の創出

基本目標3：
みんなで育む自然豊かなまち

- ・市内の緑の骨格である調布らしさを象徴する豊かな緑や水環境の維持・保全
- ・緑の多様な機能を活かした機能的な緑の創出
- ・緑に関わる人づくり・組織づくり
- ・協働による緑の育成と活用

第2章 計画策定の視点

○視点	○主な反映ポイント
1 緑の量の維持に加え、質の向上も重視した計画	⇒ 緑の適切な管理や利活用の促進等の位置づけ ・目標指標として満足度を設定 等
2 農地に関する法改正や民間との連携などの新たな視点を盛り込んだ計画	⇒ 法改正や新制度に対応した農地保全策や協働の取組の位置づけ 等
3 目標達成に向けた取組を明確化し、進行管理できる計画	⇒ 進行管理の考え方と目標指標の明記 等
4 市の強みを協働の取組に活かし、良質な緑環境を次世代につなげる計画	⇒ 基本目標・施策方針として「協働」に関する項目の柱立て 等
5 持続的な都市づくり・共生社会の構築に貢献する計画	⇒ SDGsの視点の加味 ・循環型社会の構築に資する施策 等

第3章 まちの概況

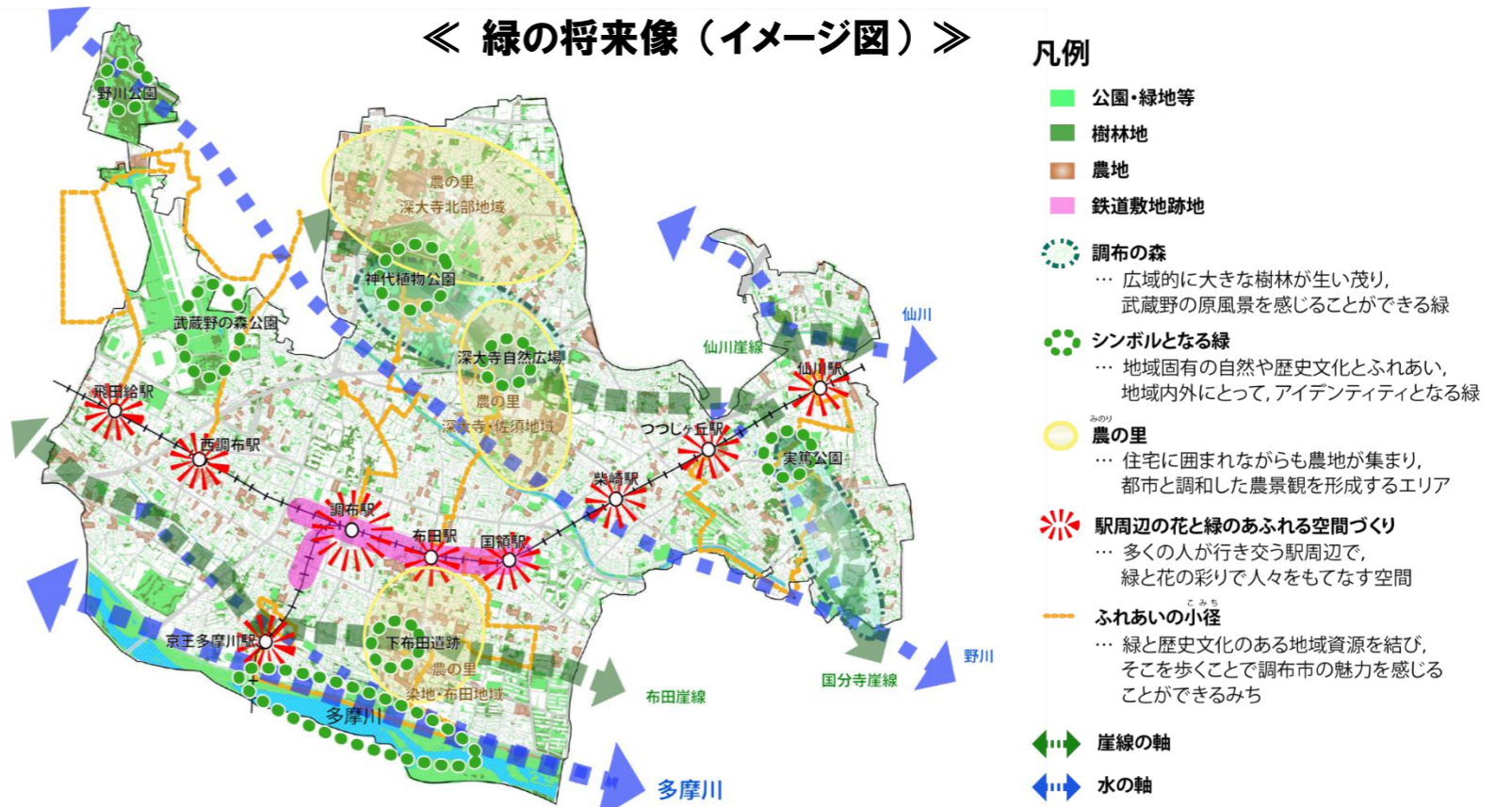
○自然条件

- ・地形・水系は国分寺崖線や野川、多摩川によって骨格が形成
- ・近年は大雨や猛暑日など（極端現象）が増加
- ・崖線には落葉樹林が分布しており、生態系として重要な緑

○社会条件

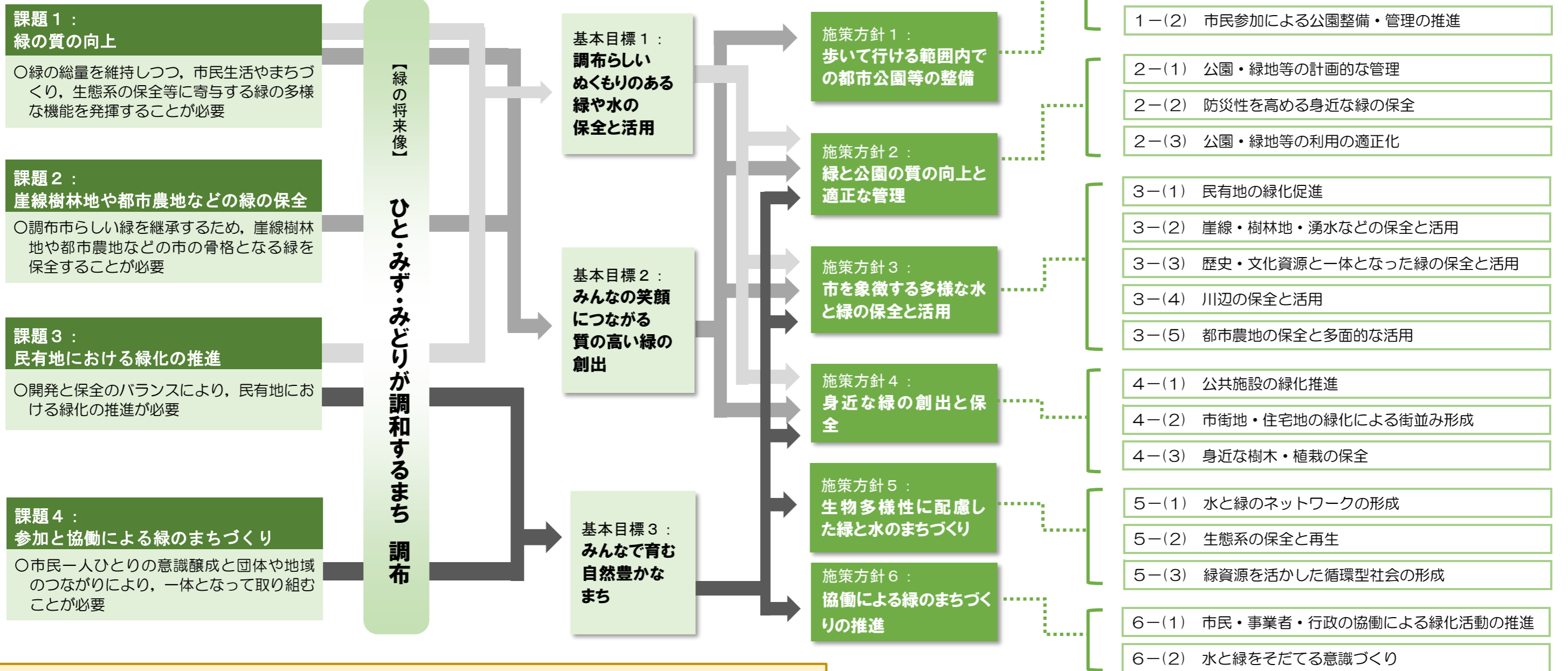
- ・人口・世帯数ともに増加傾向
- ・住宅開発の進展で、住宅用地が多く広がる

≪ 緑の将来像（イメージ図） ≫



第6章 緑に関するまちづくりの取組

- 本計画は、課題に対して緑の将来像を設定し、その実現のための目標及び対応する方針、施策で構成
- これらをまとめて緑のまちづくり全般に関する指針を定める「全体計画」とし、さらに地域別に方針をまとめた「地域別計画」を位置付け



○地域別の方針

【東部地域】

崖線に象徴される武蔵野の緑のはじまりを身近に感じる環境づくり

【西部地域】

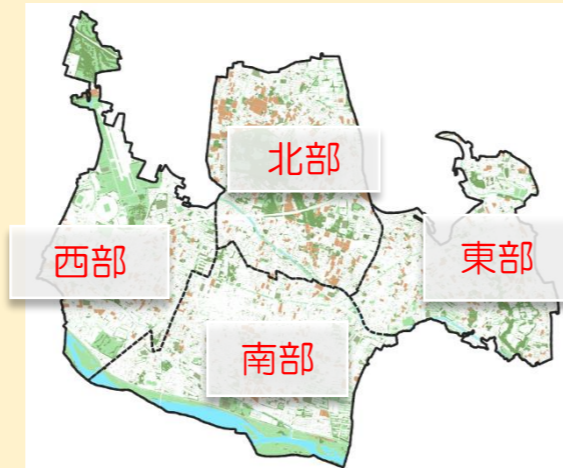
大きな公園や河川等の広がりのある豊かな緑を感じる環境づくり

【南部地域】

市の中心地としてうるおいと活力にあふれ、やすらぎとつながりを感じる緑の環境づくり

【北部地域】

崖線・里山・湧水・農の風景等、ほっとする緑の保全と環境づくり



第7章 計画の実現に向けて

○進行管理

毎年度、庁内関係各課において、施策の進捗状況を点検し、年次報告書を作成。PDCAサイクルに基づき「調布市環境保全審議会」の意見や助言を取り入れて、年次報告書の作成・公表に取り組むとともに、市民・市民団体等からも意見をいただき、継続的な改善を行う

○計画の見直し

社会・経済の情勢や緑を取り巻く変化を踏まえ、5年毎の評価・検証、10年毎に見直しを行う。